

お腹の虫

昭和の時代は戦前戦後も含めて人糞農法の野菜を食べる結果から、大多数の人たちがお腹に回虫を寄生させていた時代でした。

どの薬局にも回虫駆除薬(虫下し)の張り紙が大きく出っていて、母親達が家族のためにその薬を買い求めると、同時に必ずイチジク浣腸や30ccのガラス浣腸器とグリセリンを勧められたものです。

それは、駆除剤を飲んだ翌朝の便の中に回虫が出て来るからでした。

もし朝に排便が無ければ、薬の効果がなくなる為に、浣腸して強制的に回虫便を出すことが勧められたのです。

学校からのお知らせ

ある日、末娘の裕子が中学校から母親への“お知らせプリント”を持って帰りました。

内容は近年の食糧事情から、生徒に回虫の寄生が多く見られ、学校でも生徒の健康が問題になっている事。

生徒の栄養摂取及び健康管理の観点から回虫の駆除のお願い、との内容でした。

「各家庭では、生徒のお腹に寄生する回虫の駆除をして下さい。」

との謄写版のプリントで、具体的な方法として

「夕食後に虫下しを飲んで、翌朝の排便で結果を確認して報告する事。特に、翌朝排便が無い場合はイチジク浣腸かグリセリン浣腸をして排便させ、結果を確認して報告する事。」

との指示が書いてありました。

母親の紀子はプリントを読んで、

「裕子さん、学校の先生からのお知らせですよ。今晚お夕食後にお腹の虫を出すお薬を飲んでくださいね！ それで明日の朝のお通じを取って、お腹の回虫が出たか調べて、学校に報告しますよ。」

「はい！ お母さん、お願いします。」

裕子は少し心配顔です。それはこの何日かお便秘でお便が出ていません。

明日気持ちよくお便がでるか心配なのです。

裕子は夕食後に虫下しを飲まされ、部屋に戻ってから明日の朝が気になってなかなか眠れませんが。

「どんな虫が居るのだろうか？ お尻からニョロニョロと出てくるのだろうか？ お便の中に混ぜたて一緒に出てくるのかも知らないわ。」

色々想像しているうちに肛門がムズムズしてきました。

そして回虫がお尻からニョロニョロと出てくる夢も見ただけです。

裕子はお便秘

翌朝目が覚めてベッドにいると

「裕子さん！ 起きてるの？ このお便器にお便を出して来てね！」

母が珙瑯の便器を持って部屋に入ってきました。

裕子はそれを持ってお便所に行き便器に跨ってお便を出そうと頑張りますが、オシッコは出ても緊張のためかお便が出てきません。

とうとう諦めて戻ってきて、

「お母さん！ 全然ダメなの！ お便出ないの！ どうしたらいいの？」

「えッ！ 出ないの？ どうして？ お便秘なのね！ いつから出てないの？」

「日曜から、何度お便所に行ってもダメだったの！」

「4日もお便秘してたのねッ！　なんで早く言わなかったのっ！　今は取るの難しそうだね！　裕子さん！　お浣腸しますよッ！　そこで待つてなさい！」

母親は、お浣腸の準備に一旦部屋を出て、ワセリン、脱脂綿、検温器、綿棒、イチジク浣腸などの浣腸道具をお盆に載せて裕子の部屋に戻りました。

「さあ！　お浣腸しますよ！　お腹の悪い虫とお便秘の便、全部出してしましましょうね！」

虫下しのお浣腸

母親は布団の上に防水布を敷き、お浣腸の時に使う腰枕を中央に置きました。

「裕子さん！　下着を脱いで、ここにお尻を乗せて寝なさい！」

裕子はパンツを脱いでお尻を枕に乗せて仰向けに寝ました。

紀子は娘の両脚を開かせて膝裏で抱えさせて、肛門が上を向くお浣腸の姿勢をとらせたのです。ワセリンを人差し指に掬い娘の色の薄い肛門に塗りこみ、指を入れて便の状態を調べています。

「お便だいぶ固くなってるわね！　はいッ！お浣腸しますよ！」

お口開けて、ちよつと我慢してね！」

紀子はイチジク浣腸を肛門に刺し入れ、慎重に膨らみを潰して注腸しました。

「時間見てるわよッ！　お母さんが良いというまで我慢してね！」

紀子は潰したイチジクを抜くと肛門を脱脂綿で押さえながら、裕子のお腹を摩つて便意が起ころのを待つています。

「お母さん！　もうお腹痛いッ！　出そうなの！　出してもういいッ！」

「もう？　出るの？　まだ2分よ！　大丈夫？」

紀子は腰枕を外して、差込便器をお尻に当てがいました。

「出しているわよ！　ゆつくりね！」

「ううん！　ダメ！　苦しい！　お腹痛い！」

裕子は頑張りますが、肛門からは浣腸液がちょろちょろと漏れ出ただけでした。

母親は肛門から流れ出た浣腸液を脱脂綿で拭き取っています。

裕子が息むと肛門は開きかけますが、硬くなった便秘の便は顔を出しません。

「裕子さん！ 苦しいでしょう！ もう一度浣腸してお便を柔らかくしましょう。」

母親は二つ目のイチジク浣腸を開きかけた肛門に差し入れ注腸しまして

「我慢してね！ 今度は出しましょうね！ 苦しくてもがんばってッ！」

「ああん！ 出ちやう！ お腹イタイツ！ ううんッ！」

綿棒浣腸

母親は心配そうに娘の顔をみていましたが、ふと綿棒を手に取り裕子の肛門に差し入れて刺激し始めました。

幼児の裕子がお便秘した時の綿棒浣腸を思い出したのです。

「お母さん！ 出そう！ ああ！ 気持ち悪いーッ！ 出ちやう！」

母の綿棒で刺激されて、裕子の肛門はヒクヒク動き出して、ゆっくりと開き始めた肛門が、内側から押し出され、硬い便がようやく顔を出しました。

「お母さん！ アアッ！ 出るう！ ううんッ！」

固まった便が肛門を押し開いてゆっくりと出て便器に落ちました。

同時にオシッコがチヨロチヨロとお尻の溝を濡らしています。

「アア！ 恥ずかしい！ まだ出ちやう！ 出る出るーッ！」

通じが付いたので、便秘の宿便が続いて出てきました。

ぶう！ ブビ！ ビビ！ ニュルニュルン… ビビ！

「お母さんッ！」

沢山の浣腸便が便器に積もります。

「あつ！ でたわよ！ 回虫！ 動いているわ！ もう1匹出て来るッ！」

母親は裕子の肛門から出る便を見ながら回虫を数えています。

長い一匹が裕子の肛門にぶら下がってピクピク動いています。

「お尻気持ち悪い！ 何かいるの？ お母さん！」

「回虫がまた出てるの！ ちょっとそのまま待つて！」

母親は娘の肛門にぶら下がってプルプルと動き回る回虫を、割り箸で掴みとり引き抜きました。

「裕子さん！ まだ出るの？ お便いつぱい出ましたよ！」

回虫も大きいので4匹も見えたわよっ！」

お腹の回虫

裕子の肛門がやつと落ち着き、排便も止まったので、裕子の肛門を塵紙で拭い、アルコール綿で拭き直して体温計を手に取りました。

「そのまま少し待つて！ ついでにお熱計りましょうね！」

紀子は体温計の先にワセリンを付けて排便で緩んだ肛門に差し入れ、手を離すと抜けてくる体温計を押さえながら、

「裕子さん！ 良かったわね！ お腹にこんなに虫が居るなんてビックリよ！ 多分、お姉さん達にもいるわねッ！ きつと！」

時計で十分間の検温時間を見て、肛門から体温計を抜き、メモリを見えています。

「大丈夫！ 平熱ですよ！ 大変だったわね！ ほら！ この回虫みてごらんさい！」

母親は、便器に積もる便塊の中に蠢く回虫を娘に見せ、割り箸で回虫を探しています。

「わあ！ 気持ち悪い！ 私のお腹に、こんなに沢山のいたの！ 太くてびっくりしたッ！」

「良かったわね！ 学校への報告書書いておきますよ。」

便器の中には4日分の宿便とその中で蠢く太いピンピンした回虫が4匹とまた細い糸の様な回虫が数匹確認されたのです。

親子はその便器を覗き込み、二人で頷き合いました。

これは、母と娘の愛情浣腸が行われた瞬間でした。

紀子は娘の裕子に回虫駆除のお浣腸をしたことで、自分が娘時代、実家の母に同じ目的で浣腸をされた事を思い出していました。

日の当たる縁側に敷かれた新聞紙の上で、回虫の薬を飲んだ翌朝にお襠褌替えの姿勢にされて、硝子の浣腸器でお浣腸され、便器の中に太い回虫を何匹も出された記憶です。

紀子は娘が出した太い回虫を見た時、同じ食事をしている自分のお腹の中にもこんな回虫が寄生していると思うと、今晚にも虫下しを飲んで、明日の朝に主人にお浣腸してもらい、回虫を出してしまいたいと、裕子の使った便器を洗いながら考えているのでした。

(了)

